

「なもあみだぶつ なもあみだぶつ」

お参りに行った玄関先で、お宅のお孫さんが御内仏の前にちよこんと座り、小さな手を合わせてお念仏する声が聞こえてきました。いつもお勤めするとき、先日亡くなったおじいさんと一緒にうしろに座ってお参りしてくれていました。

その子に「いつもえらいね」と言うと言と首を横にふって「じいちゃんの手をしょーるだけ」と答えてくれました。「えらいね」とほめた私は急に恥ずかしくなりました。

その子にとって手を合やすことやお念仏することは、決して誰かに無理やりやらされていくわけでも、ほめられたいからやっているわけでもないのです。大好きなおじいさんと毎日やっていたことをおじいさんの代わりにやっているだけなのです。ただの真似事でも確かにそこには、お念仏によっておじいさんとお孫さんがつながっております。

亡くなったおじいさんを想いながら手を合わせて称えているお念仏は、どこか優しさと安心を感じる声に聞こえました。お念仏の声には不思議な働きがあることを改めて気づかされたご縁でありました。

